

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年10月29日
Date of Application:

出願番号 特願2002-314675
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP 2002-314675]

出願人 株式会社リコー
Applicant(s):

2003年 7月18日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 0207261

【提出日】 平成14年10月29日

【あて先】 特許庁長官 太田 信一郎 殿

【国際特許分類】 G06F 3/153 330

【発明の名称】 画像形成装置、画像データ転送方法、画像データ受信方法

【請求項の数】 23

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

【氏名】 木崎 修

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

【氏名】 進藤 秀規

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

【氏名】 茂木 清貴

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

【氏名】 岡村 隆生

【特許出願人】

【識別番号】 000006747

【氏名又は名称】 株式会社リコー

【代理人】

【識別番号】 100070150

【弁理士】

【氏名又は名称】 伊東 忠彦

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 002989

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】明細書**【発明の名称】** 画像形成装置、画像データ転送方法、画像データ受信方法**【特許請求の範囲】**

【請求項1】 画像形成処理で使用されるハードウェア資源と、画像形成に係る処理を行うプログラムと、通信手段とを有する画像形成装置において、

前記通信手段で接続された装置が対応可能な画像データの形式を含む形式情報を、前記装置に画像データを転送する際に取得する形式情報取得手段と、

取得した前記形式情報から、前記装置に転送する画像データの形式を決定する形式決定手段と、

決定した画像データの形式に応じて、転送する画像データの形式の変換を行う画像データ変換手段と

を有することを特徴とする画像形成装置。

【請求項2】 前記通信手段で接続された装置から、1つ以上の装置を選択する装置選択手段を有することを特徴とする請求項1に記載の画像形成装置。

【請求項3】 前記装置選択手段は、オペレータの入力により前記装置を選択することを特徴とする請求項2に記載の画像形成装置。

【請求項4】 前記形式情報取得手段は、前記通信手段で接続されている装置に対し、前記形式情報を要求することにより、前記形式情報を取得することを特徴とする請求項1から3のいずれか1項に記載の画像形成装置。

【請求項5】 前記形式情報取得手段は、オペレータにより画像データを転送することが確定された際に、前記形式情報の要求を行うことを特徴とする請求項1から4のいずれか1項に記載の画像形成装置。

【請求項6】 前記形式情報は、前記画像データの形式ごとに対応可能かどうかを示す情報を有することを特徴とする請求項1から5のいずれか1項に記載の画像形成装置。

【請求項7】 前記形式情報取得手段は、取得した前記形式情報を、装置ごとに記憶することを特徴とする請求項1から6のいずれか1項に記載の画像形成装置。

【請求項8】 前記形式情報は、前記画像データ変換手段が変換可能な形

式の情報を有することを特徴とする請求項 1 から 7 のいずれか 1 項に記載の画像形成装置。

【請求項 9】 前記形式情報は、前記形式の圧縮に関する情報を有することを特徴とする請求項 1 から 8 のいずれか 1 項に記載の画像形成装置。

【請求項 1 0】 前記形式情報は、前記画像データ変換手段が、前記画像データの形式をハードウェアで変換することが可能かどうかの情報を有することを特徴とする請求項 1 から 9 のいずれか 1 項に記載の画像形成装置。

【請求項 1 1】 前記形式決定手段は、取得した前記形式情報のうち、圧縮率が最も高い形式を転送する画像データの形式として決定することを特徴とする請求項 1 から 1 0 のいずれか 1 項に記載の画像形成装置。

【請求項 1 2】 前記画像データを高画質で転送するかどうか選択する画質選択手段をさらに有することを特徴とする請求項 1 から 1 1 のいずれか 1 項に記載の画像形成装置。

【請求項 1 3】 前記画質選択手段で、高画質で転送することが選択されると、前記形式決定手段は、取得した前記形式情報のうち、可逆な圧縮形式を転送する画像データの形式として決定することを特徴とする請求項 1 2 に記載の画像形成装置。

【請求項 1 4】 前記形式決定手段は、複数の装置に画像データを転送する場合、

画像データの形式を統一するかどうか選択することを特徴とする請求項 1 から 1 3 のいずれか 1 項に記載の画像形成装置。

【請求項 1 5】 前記形式決定手段は、転送する画像データの形式を統一できない場合、

前記画像データを変換せずに転送することを特徴とする請求項 1 4 に記載の画像形成装置。

【請求項 1 6】 画像形成処理で使用されるハードウェア資源と、画像形成に係る処理を行うプログラムと、通信手段とを有する画像形成装置において、対応可能な画像データの形式を含む形式情報を生成する形式情報生成手段と、前記通信手段で接続された他の装置に、前記形式情報を提供する形式情報提供

手段と、

前記形式情報を提供した装置から受信した画像データを、その画像データの形式に応じて変換する画像データ変換手段と

を有することを特徴とする画像形成装置。

【請求項17】 前記形式情報は、前記画像データの形式ごとに対応可能かどうかを示す情報を有することを特徴とする請求項16に記載の画像形成装置。

【請求項18】 前記形式情報は、前記画像データ変換手段が変換可能な形式の情報を有することを特徴とする請求項16または17に記載の画像形成装置。

【請求項19】 前記形式情報は、前記形式の圧縮に関する情報を有することを特徴とする請求項16から18のいずれか1項に記載の画像形成装置。

【請求項20】 前記形式情報は、前記画像データ変換手段が、前記画像データの形式をハードウェアで変換することが可能かどうかの情報を有することを特徴とする請求項16から19のいずれか1項に記載の画像形成装置。

【請求項21】 画像形成処理で使用されるハードウェア資源と、画像形成に係る処理を行うプログラムと、通信手段とを有する画像形成装置の画像データ転送方法であって、

前記通信手段で接続された装置が対応可能な画像データの形式を含む形式情報を取得する形式情報取得段階と、

取得した前記形式情報から、前記装置に転送する画像データの形式を決定する形式決定段階と、

決定した画像データの形式に応じて、転送する画像データの形式の変換を行う画像データ変換段階と

を有することを特徴とする画像データ転送方法。

【請求項22】 画像形成処理で使用されるハードウェア資源と、画像形成に係る処理を行うプログラムと、通信手段とを有する画像形成装置の画像データ受信方法であって、

対応可能な画像データの形式を含む形式情報を生成する形式情報生成段階と、

前記通信手段で接続された他の装置に、前記形式情報を提供する形式情報提供段階と、

前記形式情報を提供した装置から受信した画像データを、その画像データの形式に応じて変換する画像データ変換段階と

を有することを特徴とする画像データ受信方法。

【請求項 23】 複数の画像形成装置間での画像データ転送方法であって

、
画像データを転送する転送側画像形成装置が、画像データを転送する 1 つ以上の画像形成装置に対し、対応可能な画像データの形式を含む形式情報を前記装置に画像データを転送する際に要求する段階と、

前記画像データを受信する受信側画像形成装置が、に生成した前記形式情報を前記形式情報の要求に応じて提供する段階と、

転送側画像形成装置が、取得した前記形式情報から、前記受信側画像形成装置に転送する画像データの形式を決定する段階と、

転送側画像形成装置が、決定した画像データの形式に応じて、転送する画像データの形式の変換を行う段階と、

転送側画像形成装置が、変換した画像データを転送する段階と、

受信側画像形成装置が、前記転送側画像形成装置から受信した画像データを、その画像データの形式に応じて変換する画像データ変換段階と

を有することを特徴とする画像データ転送方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、接続された装置間における画像データの転送に関し、特に画像形成装置、画像データ転送方法、画像データ受信方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

異なる装置間で画像データを転送する代表的なものとして、ファクシミリがある。また、近年、ファクシミリ、プリンタ、コピーおよびスキャナなどの各装置

の機能を1つの筐体内に収納した画像形成装置（以下、融合機という）が知られるようになった。この融合機は、1つの筐体内に表示部、印刷部および撮像部などを設けると共に、ファクシミリ、プリンタ、コピーおよびスキャナにそれぞれ対応する4種類のアプリケーションを設け、そのアプリケーションを切り替えることより、ファクシミリ、プリンタ、コピーおよびスキャナとして動作させるものである。

【0003】

このような融合機も、複数台連結させて画像データの転送を行うことが可能となっている。そのような例として、1つの融合機が大量のコピーをする際に、連結されている他の融合機にもコピーをさせ、複数台で同時にコピーを行うことが挙げられる。

【0004】

このようなファクシミリや融合機で画像データの転送を行う場合、通常は仕様などが異なる装置間で行われる。

【0005】

そのため、例えばファクシミリでは、モデムトレーニングにより、例えば相手がG4規格に対応しているかを試めすことによってG4規格あるいはG3規格で画像データの転送を行っている。

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、モデムトレーニングは、通信方法を決定するまでにとどまり、多くの形式が存在する画像データの形式まで決定するものではない。そのため、上述したファクシミリに限らず、従来は、画像データの多くの形式のうち、どの形式に受信側の装置が対応しているかどうか分からなかったため、送信側の装置が受信側の装置の能力に応じた画像データを転送することは困難であった。

【0006】

本発明は、このような問題点を鑑み、受信側の装置の能力に応じて画像データを転送あるいは画像データを受信する画像形成装置、画像データ転送方法、画像データ受信方法を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために、本発明は、画像形成処理で使用されるハードウェア資源と、画像形成に係る処理を行うプログラムと、通信手段とを有する画像形成装置において、前記通信手段で接続された装置が対応可能な画像データの形式を含む形式情報を、前記装置に画像データを転送する際に取得する形式情報取得手段と、取得した前記形式情報から、前記装置に転送する画像データの形式を決定する形式決定手段と、決定した画像データの形式に応じて、転送する画像データの形式の変換を行う画像データ変換手段とを有することを特徴とする。

【0008】

また、上記課題を解決するために、本発明は、画像形成処理で使用されるハードウェア資源と、画像形成に係る処理を行うプログラムと、通信手段とを有する画像形成装置において、対応可能な画像データの形式を含む形式情報を生成する形式情報生成手段と、前記通信手段で接続された他の装置に、前記形式情報を提供する形式情報提供手段と、前記形式情報を提供した装置から受信した画像データを、その画像データの形式に応じて変換する画像データ変換手段とを有することを特徴とする。

【0009】

また、上記課題を解決するために、本発明は、画像形成処理で使用されるハードウェア資源と、画像形成に係る処理を行うプログラムと、通信手段とを有する画像形成装置の画像データ転送方法であって、前記通信手段で接続された装置が対応可能な画像データの形式を含む形式情報を取得する形式情報取得段階と、取得した前記形式情報から、前記装置に転送する画像データの形式を決定する形式決定段階と、決定した画像データの形式に応じて、転送する画像データの形式の変換を行う画像データ変換段階とを有することを特徴とする。

【0010】

また、上記課題を解決するために、本発明は、画像形成処理で使用されるハードウェア資源と、画像形成に係る処理を行うプログラムと、通信手段とを有する画像形成装置の画像データ受信方法であって、対応可能な画像データの形式を含む形式情報を生成する形式情報生成段階と、前記通信手段で接続された他の装置

に、前記形式情報を提供する形式情報提供段階と、前記形式情報を提供した装置から受信した画像データを、その画像データの形式に応じて変換する画像データ変換段階とを有することを特徴とする。

【0011】

また、上記課題を解決するために、本発明は、複数の画像形成装置間での画像データ転送方法であって、画像データを転送する転送側画像形成装置が、画像データを転送する1つ以上の画像形成装置に対し、対応可能な画像データの形式を含む形式情報を前記装置に画像データを転送する際に要求する段階と、前記画像データを受信する受信側画像形成装置が、に生成した前記形式情報を前記形式情報の要求に応じて提供する段階と、転送側画像形成装置が、取得した前記形式情報から、前記受信側画像形成装置に転送する画像データの形式を決定する段階と、転送側画像形成装置が、決定した画像データの形式に応じて、転送する画像データの形式の変換を行う段階と、転送側画像形成装置が、変換した画像データを転送する段階と、受信側画像形成装置が、前記転送側画像形成装置から受信した画像データを、その画像データの形式に応じて変換する画像データ変換段階とを有することを特徴とする。

【0012】

以上のように、本発明によれば、受信側の装置の能力に応じて画像データを転送あるいは画像データを受信する画像形成装置、画像データ転送方法、画像データ受信方法が得られる。

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について図面に基づいて説明する。

【0014】

図1は、本発明による融合機の一実施例の構成図を示す。融合機1は、ソフトウェア群2と、融合機起動部3と、ハードウェア資源4とを含むように構成される。

【0015】

融合機起動部3は融合機1の電源投入時に最初に実行され、アプリケーション

層5およびプラットフォーム6を起動する。例えば融合機起動部3は、アプリケーション層5およびプラットフォーム6のプログラムを、ハードディスク装置（以下、HDという）などから読み出し、読み出した各プログラムをメモリ領域に転送して起動する。ハードウェア資源4は、白黒レーザプリンタ（B&W LP）25と、カラーレーザプリンタ（Color LP）26と、MLC（Media Link Controller）45と、スキャナやファクシミリなどのハードウェアリソース24とを含む。なお、MLC45は、ハードウェアで高速に画像データの形式の変換を行うものである。

【0016】

また、ソフトウェア群2は、UNIX（登録商標）などのオペレーティングシステム（以下、OSという）上に起動されているアプリケーション層5とプラットフォーム6とを含む。アプリケーション層5は、プリンタ、コピー、ファックスおよびスキャナなどの画像形成にかかるユーザサービスにそれぞれ固有の処理を行うプログラムを含む。

【0017】

アプリケーション層5は、プリンタ用のアプリケーションであるプリンタアプリ9と、コピー用アプリケーションであるコピーアプリ10と、ファックス用アプリケーションであるファックスアプリ11と、スキャナ用アプリケーションであるスキャナアプリ12とを含む。

【0018】

また、プラットフォーム6は、アプリケーション層5からの処理要求を解釈してハードウェア資源4の獲得要求を発生するコントロールサービス層7と、1つ以上のハードウェア資源4の管理を行ってコントロールサービス層7からの獲得要求を調停するシステムリソースマネージャ（以下、SRMという）21と、SRM21からの獲得要求に応じてハードウェア資源4の管理を行うハンドラ層8とを含む。

【0019】

コントロールサービス層7は、ネットワークコントロールサービス（以下、NCSという）13、デリバリーコントロールサービス（以下、DCSという）1

4、オペレーションパネルコントロールサービス（以下、OCSという）15、ファックスコントロールサービス（以下、FCSという）16、エンジンコントロールサービス（以下、ECSという）17、メモリコントロールサービス（以下、MCSという）18、ユーザインフォメーションコントロールサービス（以下、UCSという）19、システムコントロールサービス（以下、SCSという）20など、一つ以上のサービスモジュールを含むように構成されている。

【0020】

なお、プラットフォーム6は予め定義されている関数により、アプリケーション層5からの処理要求を受信可能とするAPI28を有するように構成されている。OSは、アプリケーション層5およびプラットフォーム6の各ソフトウェアをプロセスとして並列実行する。

【0021】

通信手段に対応するNCS13のプロセスは、ネットワークI/Oを必要とするアプリケーションに対して共通に利用できるサービスを提供するものであり、ネットワーク側から各プロトコルによって受信したデータを各アプリケーションに振り分けたり、各アプリケーションからのデータをネットワーク側に送信する際の仲介を行う。

【0022】

例えばNCS13は、ネットワークを介して接続されるネットワーク機器とのデータ通信をhttpd (HyperText Transfer Protocol Daemon) により、HTTP (HyperText Transfer Protocol) で制御する。

【0023】

DCS14のプロセスは、蓄積文書の配信などの制御を行う。OCS33のプロセスは、オペレータと本体制御との間の情報伝達手段となるオペレーションパネルの制御を行う。FCS16のプロセスは、アプリケーション層5からPSTNまたはISDN網を利用したファックス送受信、バックアップ用のメモリで管理されている各種ファックスデータの登録／引用、ファックス読み取り、ファックス受信印刷などを行うためのAPIを提供する。

【0024】

ECS17のプロセスは、白黒レーザプリンタ25、カラーレーザプリンタ26、ハードウェアリソース24などのエンジン部の制御を行う。MCS18のプロセスは、メモリの取得および開放、HDの利用などのメモリ制御を行う。UCS19は、ユーザ情報の管理を行うものである。

【0025】

SCS20のプロセスは、アプリケーション管理、操作部制御、システム画面表示、LED表示、ハードウェア資源管理、割り込みアプリケーション制御などの処理を行う。

【0026】

SRM21のプロセスは、SCS20と共にシステムの制御およびハードウェア資源4の管理を行うものである。例えばSRM21のプロセスは、白黒レーザプリンタ25やカラーレーザプリンタ26などのハードウェア資源4を利用する上位層からの獲得要求に従って調停を行い、実行制御する。

【0027】

具体的に、SRM21のプロセスは獲得要求されたハードウェア資源4が利用可能であるか（他の獲得要求により利用されていないかどうか）を判定し、利用可能であれば獲得要求されたハードウェア資源4が利用可能である旨を上位層に通知する。また、SRM21のプロセスは上位層からの獲得要求に対してハードウェア資源4を利用するためのスケジューリングを行い、要求内容（例えば、プリンタエンジンによる紙搬送と作像動作、メモリ確保、ファイル生成など）を直接実施している。

【0028】

また、ハンドラ層8は後述するファックスコントロールユニット（以下、FCUという）の管理を行うファックスコントロールユニットハンドラ（以下、FCUHという）24と、プロセスに対するメモリの割り振り及びプロセスに割り振ったメモリの管理を行うイメージメモリハンドラ（以下、IMHという）23を含む。SRM39およびFCUH40は、予め定義されている関数によりハードウェア資源4に対する処理要求を送信可能とするエンジンI/F27を利用して、ハードウェア資源4に対する処理要求を行う。画像データ変換モジュール部

44は、MLC43を用いて画像データを変換する。また、画像データ変換モジュール部44は、ソフトウェアによる画像データの形式の変換も可能である。

【0029】

融合機1は、各アプリケーションで共通的に必要な処理をプラットフォーム6で一元的に処理することができる。次に、融合機1のハードウェア構成について説明する。

【0030】

図2は、本発明による融合機の一実施例のハードウェア構成図を示す。融合機1は、コントローラ30と、オペレーションパネル39と、FCU40と、USBデバイス41と、IEEE1394デバイス42と、エンジン部43とを含む。

【0031】

また、コントローラ30は、CPU31と、システムメモリ(MEM-P)32と、ノースブリッジ(以下、NBという)33と、サウスブリッジ(以下、SBという)34と、ASIC36と、ローカルメモリ(MEM-C)37と、HD38とを含む。

【0032】

オペレーションパネル39は、コントローラ30のASIC36に接続されている。また、MLC45、FCU40、USBデバイス41、IEEE1394デバイス42およびエンジン部43は、コントローラ30のASIC36にPCIBusで接続されている。

【0033】

コントローラ30は、ASIC36にローカルメモリ37、HD38などが接続されると共に、CPU31とASIC36とがCPUチップセットのNB33を介して接続されている。このように、NB33を介してCPU31とASIC36とを接続すれば、CPU31のインタフェースが公開されていない場合に対応できる。

【0034】

なお、ASIC36とNB33とはPCIBusを介して接続されているのでな

く、AGP (Accelerated Graphics Port) 35 を介して接続されている。このように、図1のアプリケーション層5やプラットフォーム6を形成する一つ以上のプロセスを実行制御するため、ASIC 36とNB 33とを低速のPCIバスでなくAGP 35を介して接続し、パフォーマンスの低下を防いでいる。

【0035】

CPU 31は、融合機1の全体制御を行うものである。CPU 31は、NCS 13、DCS 14、OCS 15、FCS 16、ECS 17、MCS 18、UCS 19、SCS 20、SRM 21、FCUH 22およびIMH 23をOS上にそれぞれプロセスとして起動して実行させると共に、アプリケーション層5を形成するプリンタアプリ9、コピーアプリ10、ファックスアプリ11、スキャナアプリ12を起動して実行させる。

【0036】

NB 33は、CPU 31、システムメモリ32、SB 34およびASIC 36を接続するためのブリッジである。システムメモリ32は、融合機1の描画用メモリなどとして用いるメモリである。SB 34は、NB 33とROM、PCIバス、周辺デバイスとを接続するためのブリッジである。また、ローカルメモリ37はコピー用画像バッファ、符号バッファとして用いるメモリである。

【0037】

ASIC 36は、画像処理用のハードウェア要素を有する画像処理用途向けのICである。HD 38は、画像データの蓄積、文書データの蓄積、プログラムの蓄積、フォントデータの蓄積、フォームの蓄積などを行うためのストレージである。また、オペレーションパネル39は、オペレータからの入力操作を受け付けると共に、オペレータに向けた表示を行う操作部である。

【0038】

次に、画像データ転送処理について説明する。まず最初に画像データ転送処理の理解を容易にするために、基本的な処理内容について図3を用いて説明する。図3には、画像データを転送する親機50と、画像データを受信し、その画像データに基づき印刷を行う子機51が示され、それぞれMLC 45a、MLC 45bを有している。なお、親機と子機は、通常は予め定めておくものではなく、画

像データを転送する側が親機であり、受信する側が子機である。

【0039】

また、親機50と子機51は、例えば、図4に示されるように、IEEE1394規格で接続されていてもよいし、ツイストペアケーブルなどで接続されていてもよい。また、図5に示されるように、インターネットやLANを介して接続されていてもよい。すなわち、いかなるプロトコルを用いて接続するかは問わない。

【0040】

このように接続された親機50と子機51の処理について説明する。図3に示される親機50は、接続された子機51から対応可能な画像データの形式を含む形式情報を取得し、コピーなどにより入力された画像データを子機51の能力に応じて転送する形式を決定し、MLC45aで形式の変換を行い、子機51に転送する。画像データを受信した子機51は、MLC45bで画像データを変換し、印刷を行う。

【0041】

このように、親機50は、接続された子機51から、子機51が対応可能な画像データの形式を含む形式情報を取得し、取得した形式情報から、子機51に転送する画像データの形式を決定し、決定した画像データの形式に応じて、転送する画像データの形式の変換をMLC45aで行う。

【0042】

また、子機51は、対応可能な画像データの形式を含む形式情報を生成し、接続された親機50に、形式情報を提供し、親機50から受信した画像データを、その画像データの形式に応じてMLC45bで変換する。

【0043】

次に、上記処理の詳細について説明する。最初に、図6を用いて、融合機1における画像データの流れと、それに関連する構成について説明する。図6には、入力部47と、メモリ46と、MLC45と、HD38と、出力部48と、プロッタ49と、外部I/F（インタフェース）52とが示されている。

【0044】

入力部47は、コピー、プリンタ、ファクシミリ、スキャナなどの画像データを入力するものである。メモリ46は、入力された画像データや、外部I/F52から受信した画像データを記憶するために用いられる。このメモリ46は、システムメモリ(MEM-P)32かローカルメモリ(MEM-C)37のいずれかのメモリが用いられる。HD38も入力された画像データや、外部I/F52から受信した画像データを記憶するために用いられる。MLC45は、メモリ46あるいはHD38に記憶された画像データの形式の変換を行う。プロッタ49は、出力部48から得られる画像データに基づき印刷する印字部である。外部I/F52は、上述したようなネットワークなどに接続するためのインタフェースである。

【0045】

次に、入力部47から入力される画像データの形式について説明する。入力部47から入力される画像データの形式には、図7に示されるように、2値、4値、8値、MH/MR/MMR、JPEG、RGB、NFC1がある。なお、NFC1は、圧縮形式の一つである。

【0046】

入力部47あるいは外部I/F52から入力された画像データは、メモリ46から直接にHD38に記憶されるか、メモリ46からMLC45で変換されたのち、HD38に記憶される。

【0047】

次に、MLC45で変換可能な画像データの形式について説明する。MLC45で変換可能な画像データの形式は、図8に示されるように、2値、4値、8値、MH/MR/MMR、JPEG/JPEG2000、RGB/sRGB、NFC1、TIFFがある。これらの変換は、MLC45によりハードウェアで行われるため、高速に変換することが可能である。

【0048】

次に、HD38に記憶可能な画像データな画像データの形式について説明する。HD38に記憶可能な画像データの形式は、図9に示されるように、2値、4値、8値、多値、MH/MR/MMR、JPEG、RGB、NFC1、K4、K

8、TIFF、RGBの形式がある。なお、K4、K8は、圧縮形式の一つである。

【0049】

次に、プロッタ49へ出力する画像データの形式について説明する。プロッタ49へ出力部48から出力される画像データの形式は、図10に示されるように、2値、4値、8値、NFC1の形式がある。

【0050】

また、外部I/F52で送受信される画像データの形式は、図11に示されるように、2値、4値、8値、MH/MR/MMR、JPEG、NFC1の形式がある。

【0051】

次に、図12を用いて、画像データの送受信に関するソフトウェアブロック図について説明する。図12には、SCS20と、SRM21と、メモリ46と、IMH23と、HD38と、画像データ変換モジュール部44と、MLC45とが示されている。

【0052】

また、SCS20は、コマンド解析部60と、形式情報取得部61と、形式情報生成部62と、形式決定部63と、子機選択部64と、形式抽出部65と、変換部66と、画質選択部67とを有する。

【0053】

コマンド解析部60は、他のモジュールや、上位アプリ、あるいはネットワークからの入力される情報のコマンドを解析し、適当な部にその情報を振り分ける。形式情報取得手段に対応する形式情報取得部61は、接続された融合機が対応可能な画像データの形式を含む形式情報を取得する。なお、この形式情報についての詳細は後述する。

【0054】

形式情報生成手段に対応する形式情報生成部62は、上記形式情報を生成する。形式決定手段に対応する形式決定部63は、取得した形式情報から、融合機に転送する画像データの形式を決定する。装置選択手段に対応する子機選択部64

は、接続された融合機から、1つ以上の融合機を選択する。形式抽出部65は、形式情報から可逆な圧縮形式などの特定の形式を抽出する。

【0055】

画像データ変換手段に対応する変換部66は、形式決定部63により決定した形式に従ってSRM21とIMH23、画像データ変換モジュール部44により、画像データの形式の変換を行う。画質選択手段に対応する画質選択部67は、高画質転送するかどうかの選択をする。

【0056】

次に、以上説明した構成で行われるSCS20の処理について説明する。まず最初に、融合機1が起動した際に行われる形式情報の生成の処理を、図13のフローチャートを用いて説明する。

【0057】

ステップS101で、SCS20は、MLCが有るかどうか判断する。MLCがない場合、SCS20は、ステップS103へ処理を進める。MLCが有る場合、ステップS102で、SCS20は、後述するMLC画像形式表の生成を行う。

【0058】

次に、SCS20は、ステップS103で、融合機1が外部から受信しても対応可能な入力画像データの形式を示す画像形式表の生成を行う。また、次のステップS104で、SCS20は、融合機1が出力可能な出力画像データの形式を示す画像形式表の生成を行う。

【0059】

上述した3つの表を順に説明する。図14に示される表は、MLC画像形式表である。この表には、MLCが、ある形式からある形式への変換が可能かどうかを示されている。また、MLC画像形式表は、その変換による画像データの圧縮率と、その変換が可逆かどうかという情報も有している。

【0060】

ある形式から他の形式へ変換が可能かどうかは、入力する形式と、出力する形式の交点にある「X」、「Y」、「Z」に示されている。「X」は変換不可能を

示し、「Y」は可逆変換可能を示し、「Z」は非可逆変換可能を示す。

【0061】

また、交点には、括弧で囲まれた数字が示されている。この数字は圧縮率を示している。

【0062】

例として、入力が形式Aの画像データであり、変換して出力する形式が形式Bの画像データであれば、それらの交点には、Zと(0.4)が示されている。したがって、形式Aから形式Bへ圧縮率0.4で非可逆変換可能なことが分かる。また、形式Kからはいかなる形式にも変換できないことも分かる。

【0063】

このように、形式情報は、MLCが変換可能な形式の情報を有する。また、形式情報は、圧縮率と可逆変換可能かどうかという圧縮に関する情報を有する。

【0064】

次に、図15、図16を用いて、入力画像データの形式及び出力画像データの形式を示す画像形式表を説明する。これらの表において、入力あるいは出力可能な形式は、「Z」で示し、不可能な形式には「X」で示す。例えば図15の画像形式表には、形式Cの入力は可能であり、形式Kの入力は不可能であることが示されている。また、図16において、形式Bの出力は可能であり、形式Dの出力は不可能であることが示されている。

【0065】

このように、形式情報は、画像データの形式ごとに対応可能かどうかを示す情報を有する。

【0066】

次に、図17の表について説明する。図17の表は、MLC有無表であり、MLCがあるかないかを示す表である。自らがMLCを搭載しているときは、図17に示されるように「有り」となり、搭載していない場合は、「無し」となる。このように、形式情報は、画像データの形式をハードウェアで変換することが可能かどうかの情報を有する。また、このMLC有無表は、MLC画像形式表の生成とともに生成される。

【0067】

以上説明した図14から図17に示される表が形式情報であり、上述したように、親機と子機は、送受信する立場で定まるため、必ず親機として使うなど決めていない限り、融合機1は、起動時に形式情報を生成するか、必要に応じて形式情報を生成する。このようにして形式情報を生成するため、自らがどの画像データの形式に対応しているかどうかを外部に対して簡単に認識させることができる。

【0068】

ここで、図14のMLC画像形式表と、図15、図16の入力画像データの形式及び出力画像データの形式に対応する画像形式表の意義について説明する。融合機は一般的に、MLCが無くてもある程度の画像データの形式には対応できる。また、MLCは、その融合機がMLCが無くとも対応できる形式の変換を高速に行うことや、対応していなかった新たな形式も扱うことを可能とするためのハードウェアである。したがって、同じ形式であっても、図14かつ図15で対応可能な場合と、図15のみで対応可能な場合では、画質や処理内容などに違いが生じる。そのため、図14、15、16の表が必要となる。もっとも、符号を個々に割り振れば1つの表で表現することも可能である。

【0069】

なお、これら形式情報は、プログラムで実現する場合、C言語であれば、「X」、「Y」、「Z」を例えば0x00、0x01、0x02に対応させ配列やビットフィールドを用いて実現することができる。これが、「有り」、「無し」でも同様である。また、MLC画像形式表のように、一つの形式に対して、変換可能かどうかの情報と、圧縮率の情報という2つの情報を対応させる場合は、C言語の構造体を用いることで実現することができる。

【0070】

次に、画像を転送する処理を、図18を用いて説明する。ステップS201で、どの融合機に転送させるかを1つ以上選択する子機選択処理が行われる。これは、オペレーションパネル39に表示された子機の中からオペレータが選択したり、融合機ごとにIDをつけておき、IDを指定することによって選択する。こ

のIDとして、例えば融合機が有するデバイスIDや、IPアドレス、またはMACアドレスなどが挙げられる。このようにして融合機の実機は、オペレータの入力により行われる。

【0071】

子機が選択されると、次にSCS20は、ステップS202で、選択された子機N台分がどの子機であるかを取得する。次のステップS203は、連結要求があるまでの待ち状態である。この連結要求とは、選択した子機と連結して印刷させるため、選択した子機に実際に画像データを転送するための要求である。そして、この要求は、オペレータがオペレーションパネルで入力することによりSCS20に通知される。

【0072】

連結要求を通知されたSCS20は、選択された子機に対して形式情報を要求し、取得する。このように、SCS20は、オペレータの連結要求により、画像データを転送することが確定すると、画像データを転送する融合機に対し、形式情報を要求する。また、子機のSCS20は、親機に対し、形式情報を提供する。

【0073】

次に、SCS20は、ステップS204で、子機に転送する画像データの形式を決定する。そして、ステップS205で、決定した形式で画像データを子機に転送する。

【0074】

次に、取得した形式情報から、転送する形式を決定するステップS204の処理の詳細について、図19を用いて説明する。

【0075】

ステップS301で、SCS20は、ループ変数iの初期化を行う。このループ変数iは、子機の数のカウントに用いられる変数である。次のステップS302で、SCS20は、自らが搭載されており親機である融合機にMLCがあるかどうか判断する。MLCがない場合は、ステップS303で、画像データの形式を変換せずに、子機へ転送する。

【0076】

次に、SCS20は、ステップS304で子機の形式情報の取得を行う。この処理における親機と子機間の形式情報を取得する際のやり取りを、図20のシーケンス図を用いて説明する。ステップS401で、親機54のSCS20は、オペレータから連結要求を通知される。次に、親機54は、ステップS402で、子機A55に対して形式情報取得要求を通知し、子機A55は、ステップS403で、起動時に生成した形式情報を親機54に提供する。同様に、親機54は、ステップS404で、子機N56に対して形式情報取得要求を通知し、子機N56は、ステップS405で、起動時に生成した形式情報を親機54に提供する。このように、親機54と子機N56は、予め定めておいたプロトコルを用いて、形式情報のやり取りを行う。

【0077】

取得された形式情報は、図21から図24に示されるように融合機ごとに記憶される。そのうちの図21は、融合機ごとのMLC画像形式表である。この表に示されるように、MLCに関する形式情報は、融合機Aから融合機NまでのMLC画像形式表で構成される。また、MLC有無表も図22に示されるように、融合機Aから融合機NまでのMLC有無表で構成される。さらに、入出力可能な画像形式も図23、24に示されるように、融合機Aから融合機NまでのMLC有無表で構成される。

【0078】

これらの表をプログラムで実現するためには、先ほど説明したそれぞれの融合機に対応する情報を1つの単位とした配列にすることで実現することができる。あるいは、それぞれの融合機から取得情報を取得するごとに、メモリを確保し、それらをチェーンでつなぐことによっても実現することができる。

【0079】

図19の説明に戻る。以上のようにして取得した情報を基に、SCS20は、ステップS305で、子機にMLCが有るかどうか判断する。この判断は、図22に示される表に基づき行われる。MLCが無い場合は、ステップS303で、画像データの形式を変換せずに、子機へ転送する。

【0080】

親機、子機ともにMLCがある場合、ステップS306で、SCS20は、転送する画像データの形式を決定する処理を行う。このようにして決定した画像データの形式を、SCS20は、ステップS307で、カウンタi番目の子機に転送する画像データの形式として記憶する。そして、ステップS308で、SCS20は、全ての子機に対して画像データの形式を決定する処理を行ったかどうか判断し、全ての子機に対して形式が決定した場合、SCS20は、ステップS310へ処理を進める。

【0081】

全ての子機に対して形式が決定していない場合、SCS20は、ステップS309でループカウンタを更新し、再びステップS302の処理を行う。

【0082】

ステップS308で、全ての子機に対して形式が決定している場合、ステップS310で、SCS20は、転送形式のチェックをするかどうか判断する。この転送形式のチェックとは、複数の子機に対して送信する画像データの形式が異なっているかどうかをチェックする処理である。これは、複数の子機に画像データを送る際に、形式が異なる場合、それぞれの融合機で印刷された画像の質が異なることもありえる。形式が異なることが好ましくない例として、大量原稿のコピーを行う場合や画像の質が重要な場合が挙げられる。

【0083】

ステップS310で、SCS20は、転送形式のチェックをするかどうか判断し、チェックの必要のない場合は、処理を終了する。転送形式のチェックを行う場合、SCS20は、ステップS311で、子機へ転送する画像データの形式が全て同一かどうか判断し、同一であれば処理を終了する。画像データの形式が同一でなければ、SCS20は、ステップ312で画像データの形式を変換せずに転送することに決定し、処理を終了する。

【0084】

このように、SCS20は、画像データの形式を統一するかどうか選択する。また、SCS20は、転送する画像データの形式を統一できない場合、画像デー

タを変換せずに転送する。これにより、変換はできないが、元の画像データの形式となるため、結果的に統一された画像データを送信することが可能となる。

【0085】

以上が転送する形式を決定する処理であるが、高画質で転送することも可能である。なお、ここでの高画質で転送とは、図14で説明した変換の形式のうち、可逆な変換によって変換された画像データの転送を意味する。また、非可逆な変換であっても、要求する画質に適合するのであれば、高画質の定義をそれに合わせて運用しても良い。

【0086】

高画質で転送する場合、予めオペレータにより、オペレーションパネル39から高画質転送が選択される。そのとき表示される画面は、図25に示される画面である。この画面において、オペレータが「する」を選択することにより高画質転送される。

【0087】

この場合、図19のフローチャートのステップS306の処理の詳細は、図26に示されるフローチャートの処理となる。図26に示されるフローチャートの説明をする。図26のステップS501で、SCS20は、高画質転送モードかどうかの判断を行う。高画質転送モードではない場合、SCS20は、ステップS502で、非高画質転送時の形式決定処理を行い、処理を終了する。ステップS501で、高画質転送モードと判断されると、SCS20は、ステップS503で高画質転送時の形式決定処理を行い、処理を終了する。

【0088】

このようにして、SCS20は、画像データを高画質で転送するかどうか選択する。

【0089】

次に、非高画質転送時と高画質転送時の処理を説明する。最初に、非高画質転送時の処理を図27のフローチャートを用いて説明する。なお、以下のフローチャートでは、親機の入力形式を形式Bとして説明する。親機の入力形式とは、親機が子機に転送する変換前の画像データの形式を表す。

【0090】

ステップS601で、SCS20は、親機の入力形式を取得する。次に、SCS20は、ステップS602で、図21で示したMLC画像形式から、入力形式がBで変換可能な形式を抽出し、変換形式Tblへ入力画像形式と圧縮率を書き出す。

【0091】

この変換形式Tblを、図28を用いて説明する。まず、図21を参照すると、形式Bから変換可能な形式は、例えば融合機Aの場合、形式A、C、Dであることが分かる。したがって、図28に示されるように、変換形式Tblには、形式A、C、Dが書き込まれる。そして、それらの圧縮率は、図21から、0.9、0.8、0.7であることが分かるので、変換形式Tblにそれらの数値が書き込まれる。また、フラグを書き込む領域については後述する。

【0092】

フローチャートの説明に戻り、ステップS603で、SCS20は、変換形式Tblに書き込まれた形式のうち、フラグ領域にチェック済みを示す書き込みがない形式で最も圧縮率が高い形式を抽出する。図28の場合、最も圧縮率が高いのは形式Dであるので、形式Dが抽出される。その形式Dのフラグ領域に、SCS20は、ステップS604でチェック済みフラグをセットする。

【0093】

このように、SCS20は、取得した形式情報のうち、圧縮率が最も高い形式を決定する。これにより、画像データのサイズが小さくなるため、転送効率が良くなるとともに、伝送路のトラフィックを抑制することが可能となる。

【0094】

次に、SCS20は、ステップS605で、抽出された形式は、子機で出力可能な形式かどうか判断する。子機で出力可能な形式であれば、SCS20は、ステップS610へ処理を進め、転送する画像データの形式を先ほど抽出した形式に決定し、処理を終了する。

【0095】

ステップS605の処理に戻り、子機で出力することが不可能な形式の場合、

SCS20は、ステップS606で抽出された形式が子機のMLCで逆変換可能かどうかの判断を行う。逆変換可能であれば、SCS20は、ステップS609で、子機で逆変換される形式が、子機が印刷可能な形式かどうか判断する。子機が印刷可能であれば、SCS20は、ステップS610で抽出した形式に決定し、処理を終了する。子機が印刷不可能であれば、SCS20は、再びステップS603の処理を行う。

【0096】

ステップS606の処理に戻り、ステップS606で、抽出された形式が子機のMLCで逆変換不可能の場合、SCS20は、ステップS607へ処理を進める。

【0097】

ステップS607で、SCS20は、変換形式Tblを全てチェックしたかどうか判定する。まだ、全ての変換形式Tblにチェックしていない形式があれば、SCS20は、ステップS603へ処理を進める。全ての変換形式のチェックが完了した場合、SCS20はステップS608で、画像転送形式は、もとの画像データのまま、変換せずに転送することに決定する。

【0098】

次に、高画質転送時の処理を図29を用いて説明する。なお、以下のフローチャートでも、親機の入力形式を形式Bとして説明する。

【0099】

ステップS701で、SCS20は、親機の入力形式を取得する。次に、SCS20は、ステップS702で、図21で示したMLC画像形式から、入力形式がBで可逆な変換が可能な形式を抽出し、変換形式Tblへ入力画像形式と圧縮率を書き出す。

【0100】

この変換形式Tblを、図30を用いて説明する。まず、図21を参照すると、形式Bから可逆な変換が可能な形式は、例えば融合機Aの場合、形式A、Cであることが分かる。したがって、図30に示されるように、変換形式Tblには、形式A、Cが書き込まれる。そして、それらの圧縮率は、図21から、0.9、0

.8であることが分かるので、変換形式 T b l にそれらの数値が書き込まれる。

【0101】

このように、SCS20は、高画質で転送する場合、取得した形式情報のうち、可逆な圧縮形式を決定する。

【0102】

フローチャートの説明に戻り、ステップ S 703で、SCS20は、変換形式 T b l に書き込まれた形式のうち、フラグ領域にチェック済みを示す書き込みがない形式で最も圧縮率が高い形式を抽出する。図30の場合、最も圧縮率が高いのは形式Dであるので、形式Dが抽出される。その形式Dのフラグ領域に、SCS20は、ステップ S 704でチェック済みフラグをセットする。

【0103】

次に、SCS20は、ステップ S 705で、抽出された形式が、子機で出力可能な形式かどうか判断する。子機で出力可能な形式であれば、SCS20は、ステップ S 710へ処理を進め、転送する画像データの形式を先ほど抽出した形式に決定し、処理を終了する。

【0104】

ステップ S 705の処理に戻り、子機に出力不可能な形式の場合、SCS20は、ステップ S 706で抽出された形式が子機のMLCで逆変換可能かどうかの判断を行う。逆変換可能であれば、SCS20は、ステップ S 709で、子機で逆変換される形式は、子機が印刷可能な形式かどうか判断する。子機が印刷可能であれば、SCS20は、ステップ S 710で抽出した形式に決定し、処理を終了する。子機が印刷不可能であれば、SCS20は、再びステップ S 703の処理を行う。

【0105】

ステップ S 706の処理に戻り、ステップ S 706で、抽出された形式が子機のMLCで逆変換不可能の場合、SCS20は、ステップ S 707へ処理を進める。

【0106】

ステップ S 707で、SCS20は、変換形式 T b l を全てチェックしたかど

うか判定する。まだ、全ての変換形式 T b l にチェックしていない形式があれば、S C S 2 0 は、ステップ S 7 0 3 へ処理を進める。全ての変換形式のチェックが完了した場合、S C S 2 0 はステップ S 7 0 8 で、画像転送形式は、もとの画像データのまま、変換せずに転送することに決定する。

【0107】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、受信側の装置の能力に応じて画像データを転送あるいは画像データを受信する画像形成装置、画像データ転送方法、画像データ受信方法が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明による融合機の一実施例の構成図である。

【図2】

本発明による融合機の一実施例のハードウェア構成図である。

【図3】

本発明による基本的な処理内容を示す図である。

【図4】

融合機を I E E E 1 3 9 4 で接続した様子を示す図である。

【図5】

融合機をインターネット・LANで接続した様子を示す図である。

【図6】

画像データの流れと構成を示す図である。

【図7】

入力部から入力される画像データの形式を示す図である。

【図8】

M L C で変換可能な画像データの形式を示す図である。

【図9】

H D に記憶可能な画像データの形式を示す図である。

【図10】

出力部から出力される画像データの形式を示す図である。

【図 11】

外部 I/F で送受信される画像データの形式を示す図である。

【図 12】

画像データの送受信に関するソフトウェアブロック図である。

【図 13】

形式情報の生成の処理を示すフローチャートである。

【図 14】

M L C 画像形式表である。

【図 15】

画像形式（入力）表である。

【図 16】

画像形式（出力）表である。

【図 17】

M L C 有無表である。

【図 18】

画像を転送する処理を示すフローチャートである。

【図 19】

転送する形式を決定する処理を示すフローチャートである。

【図 20】

形式情報を取得する処理を示すシーケンス図である。

【図 21】

融合機ごとの M L C 画像形式表である。

【図 22】

融合機ごとの M L C 有無表である。

【図 23】

融合機ごとの画像形式（入力）表である。

【図 24】

融合機ごとの画像形式（出力）表である。

【図 25】

転送モードの設定画面を示す図である。

【図 26】

高画質転送モードを判定する処理を示すフローチャートである。

【図 27】

非高画質転送時の処理を示すフローチャートである。

【図 28】

変換形式 T b l を示す図である。

【図 29】

高画質転送時の処理を示すフローチャートである。

【図 30】

変換形式 T b l を示す図である。

【符号の説明】

- 1…融合機
- 2…ソフトウェア群
- 3…融合機起動部
- 4…ハードウェア資源
- 5…アプリケーション層
- 6…プラットフォーム
- 7…コントロールサービス層
- 8…ハンドラ層
- 9…プリンタアプリ
- 10…コピーアプリ
- 11…ファックスアプリ
- 12…スキャナアプリ
- 13…ネットワークコントロールサービス (NCS)
- 14…デリバリーコントロールサービス (DCS)
- 15…オペレーションパネルコントロールサービス (OCS)
- 16…ファックスコントロールサービス (FCS)

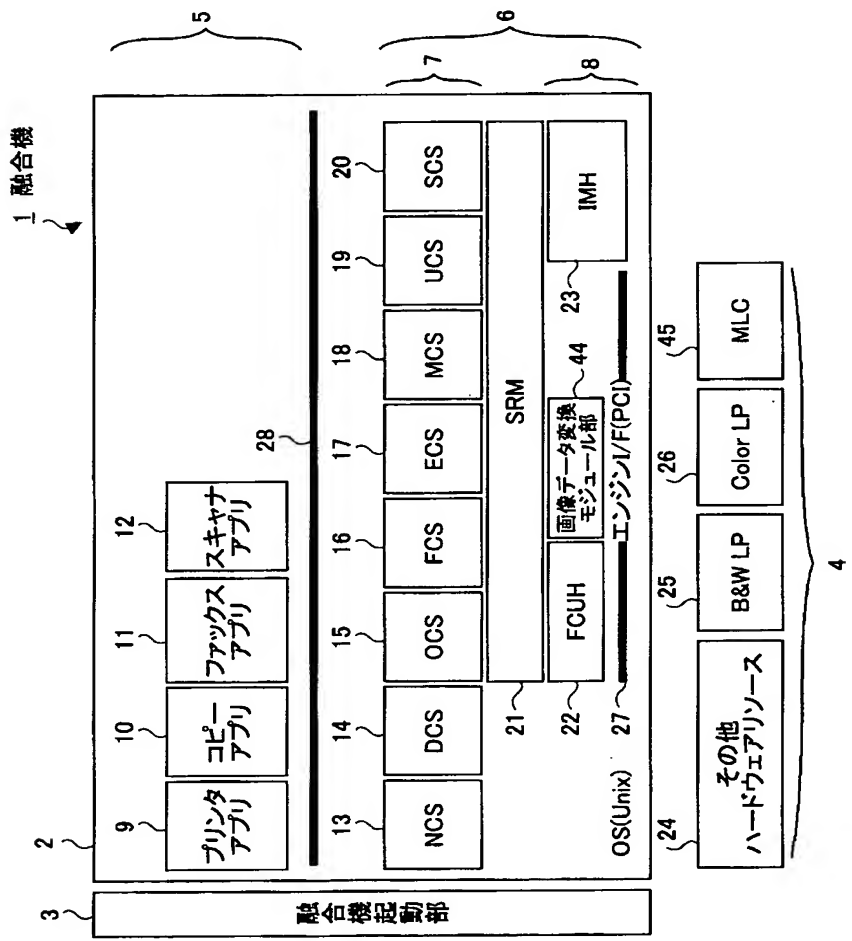
- 17…エンジンコントロールサービス (ECS)
- 18…メモリコントロールサービス (MCS)
- 19…ユーザインフォメーションコントロールサービス (UCS)
- 20…システムコントロールサービス (SCS)
- 21…システムリソースマネージャ (SRM)
- 22…ファックスコントロールユニットハンドラ (FCUH)
- 23…イメージメモリハンドラ (IMH)
- 24…ハードウェアリソース
- 25…白黒レーザプリンタ (B&W LP)
- 26…カラーレーザプリンタ (Color LP)
- 27…アプリケーションプログラムインターフェース (API)
- 28…エンジン I/F
- 30…コントローラ
- 31…CPU
- 32…システムメモリ (MEM-P)
- 33…ノースブリッジ (NB)
- 34…サウスブリッジ (SB)
- 35…AGP (Accelerated Graphics Port)
- 36…ASIC
- 37…ローカルメモリ (MEM-C)
- 38…ハードディスク装置 (HD)
- 39…オペレーションパネル
- 40…ファックスコントロールユニット (FCU)
- 41…USBデバイス
- 42…IEEE 1394 デバイス
- 43…エンジン部
- 44…画像データ変換モジュール部
- 45、45 a、45 b…MLC
- 46…メモリ

4 7 …入力部
4 8 …出力部
4 9 …プロッタ
5 0 …親機
5 1 …子機
5 2 …外部インタフェース
6 0 …コマンド解析部
6 1 …形式情報取得部
6 2 …形式情報生成部
6 3 …形式決定部
6 4 …子機選択部
6 5 …形式抽出部
6 6 …変換部
6 7 …画質選択部

【書類名】 図面

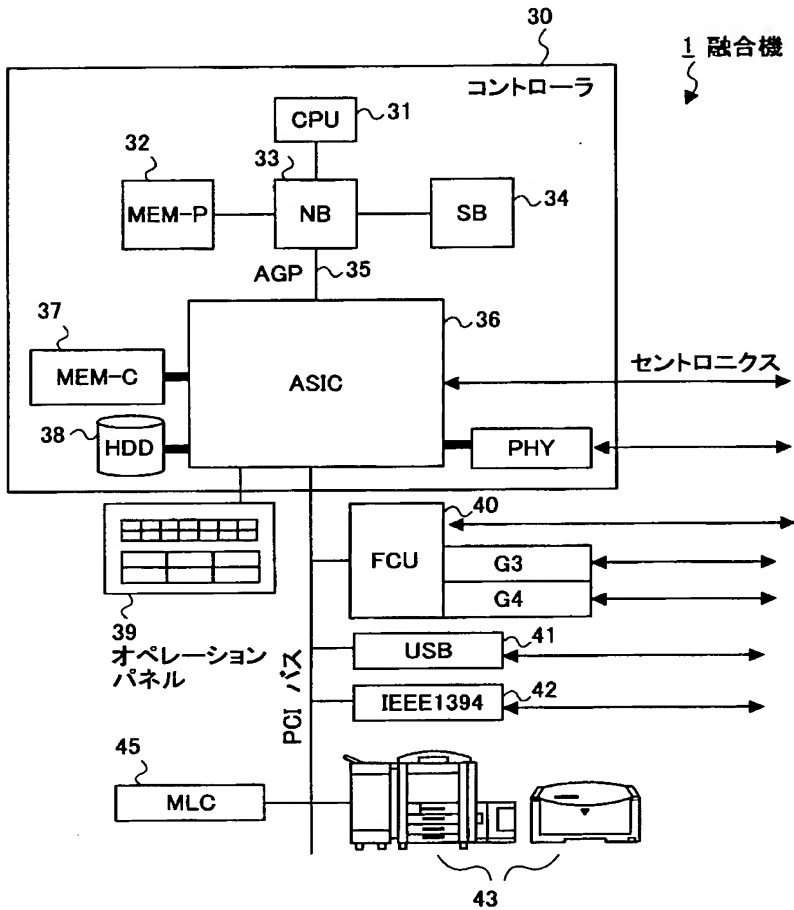
【図1】

本発明による融合機の一実施例の構成図



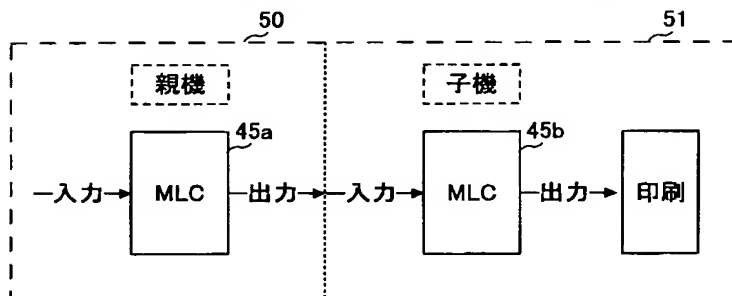
【図2】

本発明による融合機の一実施例のハードウェア構成図



【図 3】

本発明による基本的な処理内容を示す図



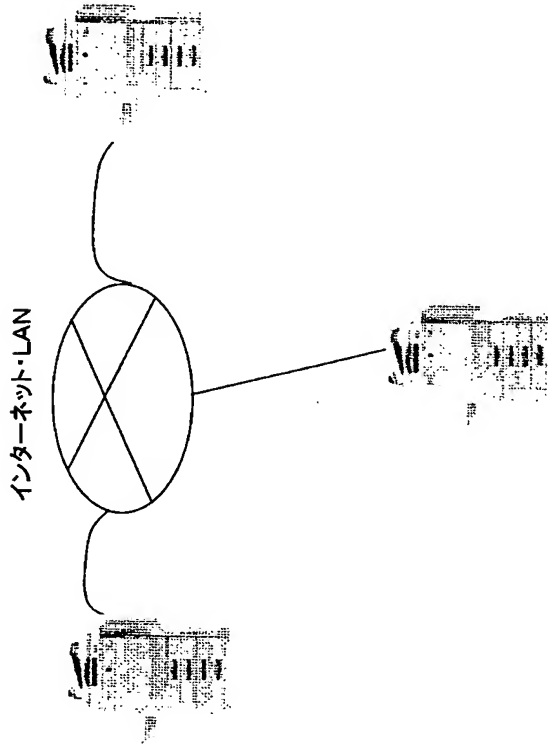
【図4】

融合機をIEEE1394で接続した様子を示す図



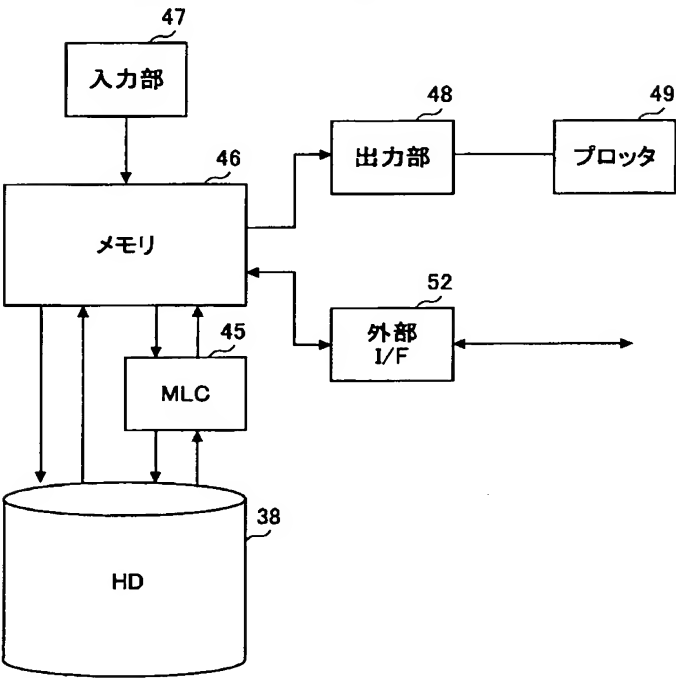
【図5】

融合機をインターネット・LANで接続した様子を示す図



【図6】

画像データの流と構成を示す図



【図7】

入力部から入力される画像データの形式を示す図

2値、4値、8値
MH/MR/MMR
JPEG
RGB
NFC1

【図8】

MLCで変換可能な画像データの形式を示す図

2値、4値、8値
MH/MR/MMR
JPEG/JPEG2000
RGB/sRGB
TIFF

【図9】

HDに記憶可能な画像データの形式を示す図

2値、4値、8値、多値
MH/MR/MMR
JPEG
NFC1
K4、K8
TIFF
RGB

【図10】

出力部から出力される画像データの形式を示す図

2値、4値、8値
NFC1

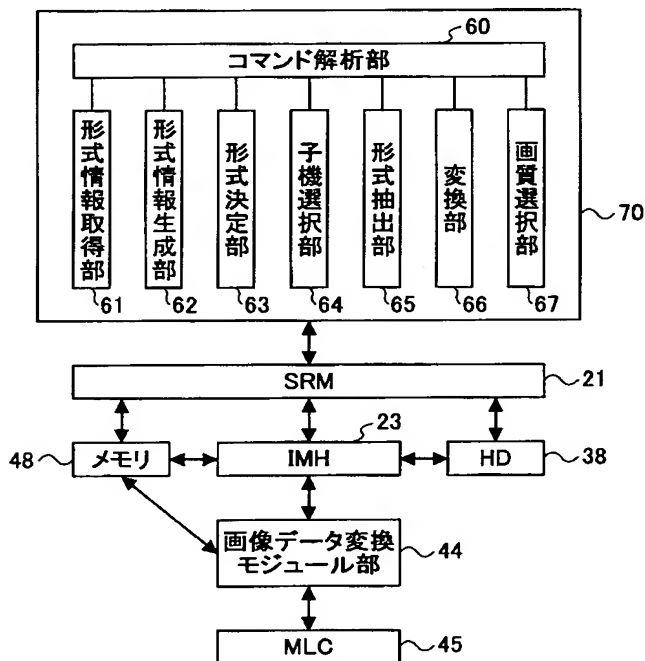
【図11】

外部I/Fで送受信される画像データの形式を示す図

2値、4値、8値
MH/MR/MMR
JPEG
NFC1

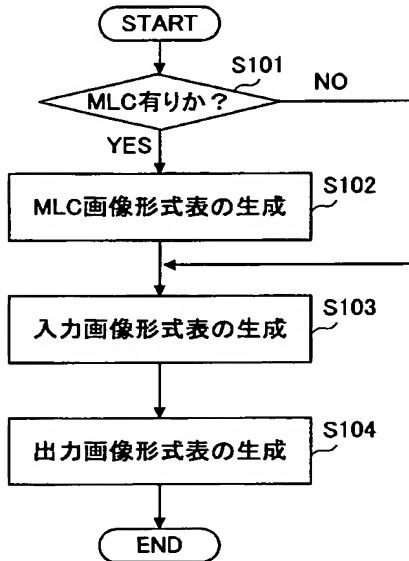
【図12】

画像データの送受信に関するソフトウェアブロック図



【図 13】

形式情報の生成の処理を示すフローチャート



【図 14】

MLC画像形式表

MLC画像形式							
		入力					
		形式A	形式B	形式C	形式D	...	形式K
出力	形式A	-	Y(0.9)	Z(0.8)	Z(0.7)	...	X
	形式B	Z(0.4)	-	Y(0.7)	Y(0.8)	...	X
	形式C	Z(0.5)	Y(0.8)	-	Z(0.9)	...	X
	形式D	Z(0.6)	Z(0.7)	Z(0.8)	-	...	X

	形式K	X	X	X	X	X	X

【図 1 5】

画像形式(入力)表

画像形式(入力)	
形式A	X
形式B	Z
形式C	Z
形式D	X
...	...
形式K	X

【図 1 6】

画像形式(出力)表

画像形式(出力)	
形式A	X
形式B	Z
形式C	Z
形式D	X
...	...
形式K	X

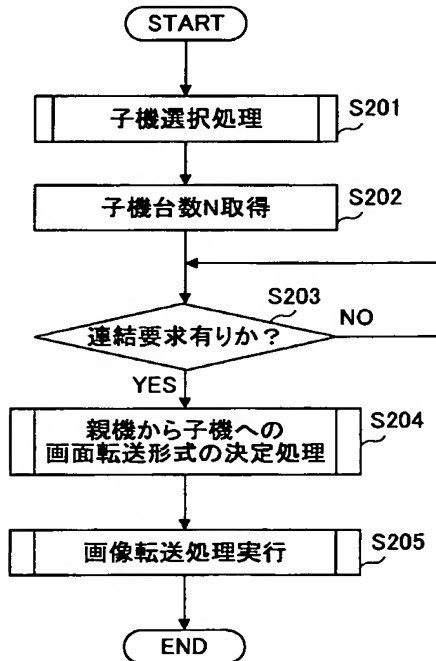
【図 1 7】

MLC有無表

MLC	有り
-----	----

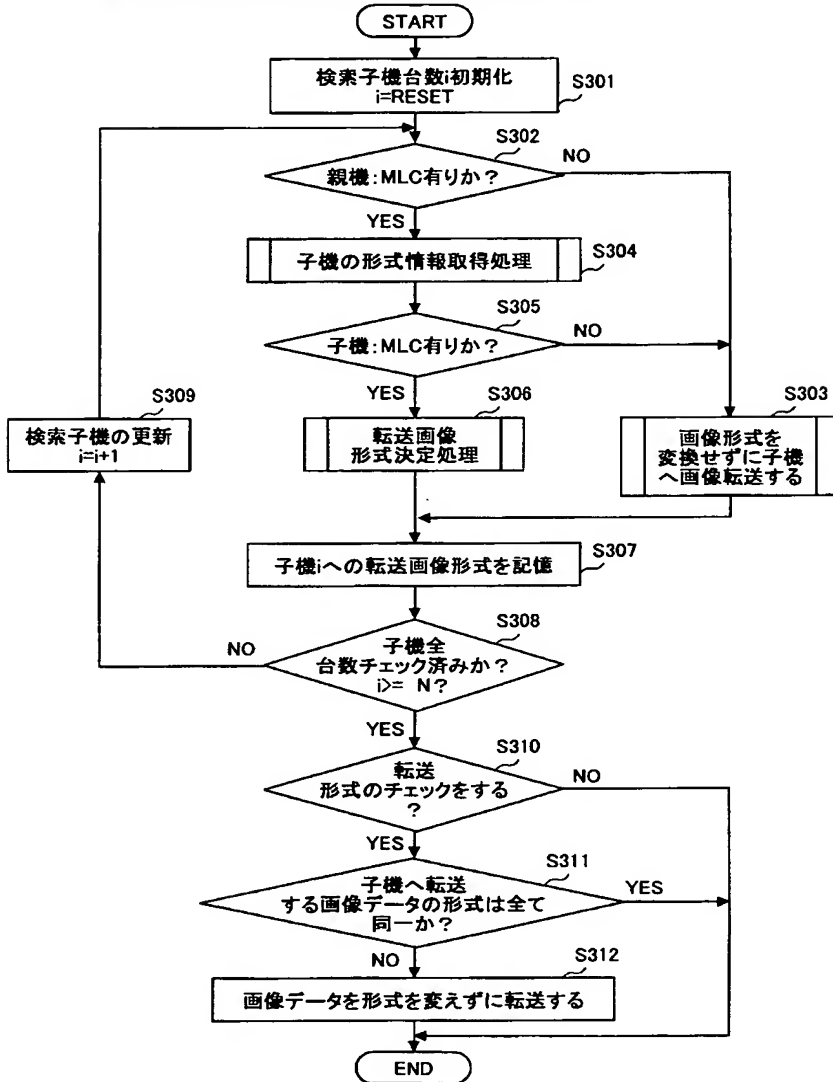
【図18】

画像を転送する処理を示すフローチャート



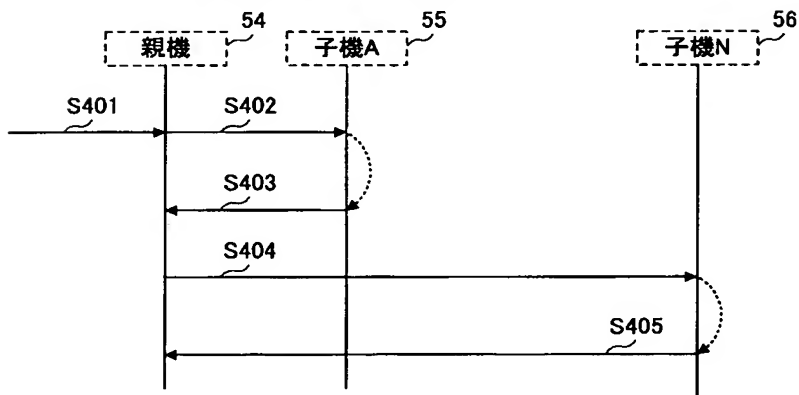
【図19】

転送する形式を決定する処理を示すフローチャート



【図 20】

形式情報を取得する処理を示すシーケンス図



【図21】

融合機ごとのMLC画像形式表

MLC画像形式(融合機N)										
		入力								
		MLC画像形式(融合機B)								
出力	形式A			入力						
	形式B			MLC画像形式(融合機A)						
	形式C	出力	形式A	入力						
	形式D		形式B	形式A	形式B	形式C	形式D	...	形式K	
	...		形式C	形式A	-	Y(0.9)	Z(0.8)	Z(0.7)	...	X
	形式K		形式D	形式B	Z(0.4)	-	Y(0.7)	Y(0.8)	...	X
			...	形式C	Z(0.5)	Y(0.8)	-	Z(0.9)	...	X
			形式K	形式D	Z(0.6)	Z(0.7)	Z(0.8)	-	...	X
			
			形式K	X	X	X	X	X	X	-

【図22】

融合機ごとのMLC有無表

MLC有無					
	融合機A	融合機B	融合機C	...	融合機N
MLC	有り	無し	有り	...	有り

【図23】

融合機ごとの画像形式（入力）表

画像形式(入力)					
	融合機A	融合機B	融合機C		融合機N
形式A	X	X	Z	...	Z
形式B	Z	Z	Z	...	Z
形式C	Z	X	Z	...	Z
形式D	X	X	X	...	X
...
形式K	X	X	X	...	X

【図24】

融合機ごとの画像形式（出力）表

画像形式(出力)					
	融合機A	融合機B	融合機C		融合機N
形式A	X	X	Z	...	Z
形式B	Z	Z	Z	...	Z
形式C	Z	X	Z	...	Z
形式D	X	X	X	...	X
...
形式K	X	X	X	...	X

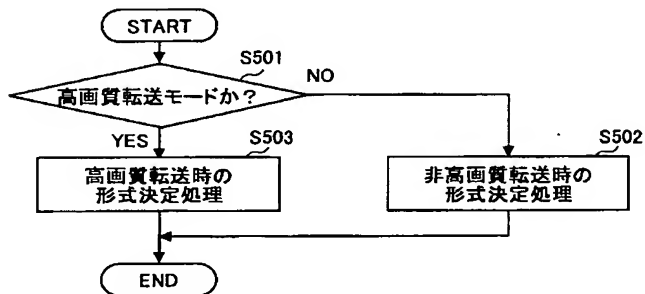
【図25】

転送モードの設定画面を示す図

転送モード設定	
高画質転送	<div>する</div> <div>しない</div>

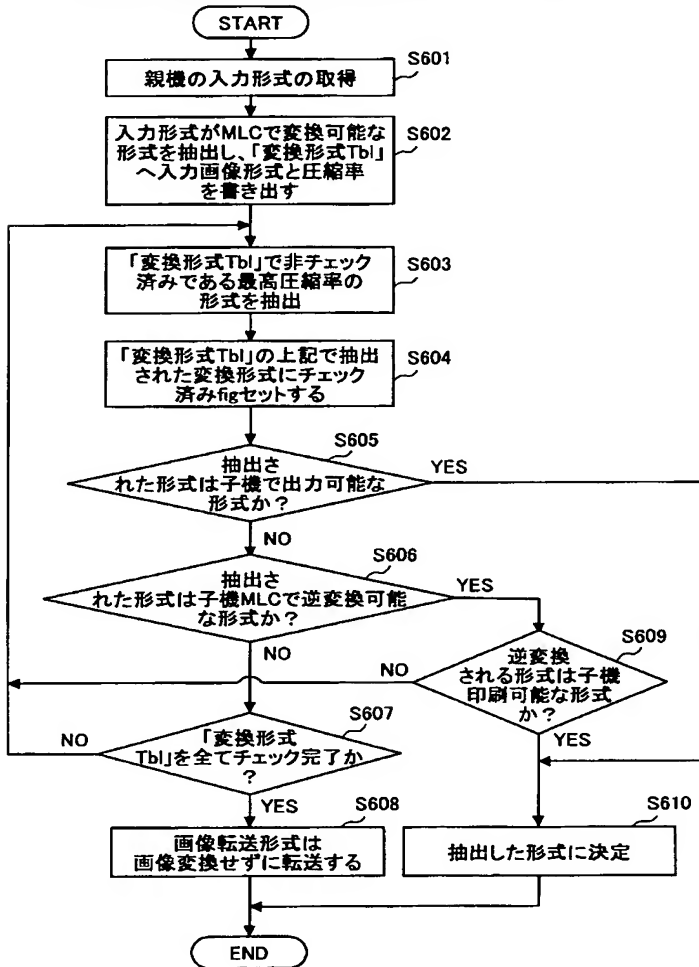
【図26】

高画質転送モードの設定画面を示すフローチャート



【図27】

非高画質転送時の処理を示すフローチャート



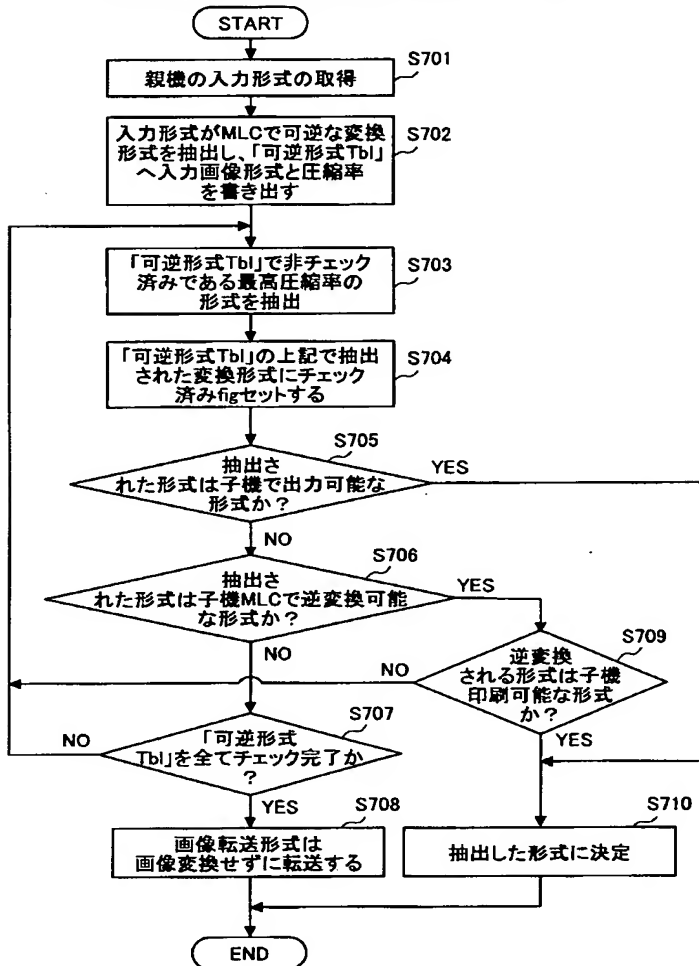
【図 2 8】

変換形式Tblを示す図

変換形式Tbl			
形式	A	C	D
圧縮率	0.9	0.8	0.7
フラグ			

【図29】

高画質転送時の処理を示すフローチャート



【図 3 0】

変換形式Tblを示す図

変換形式Tbl		
形式	A	C
圧縮率	0.9	0.8
フラグ		

【書類名】 要約書**【要約】**

【課題】 受信側の装置の能力に応じて画像データを転送あるいは画像データを受信する画像形成装置、画像データ転送方法、画像データ受信方法を提供する。

【解決手段】 画像形成処理で使用されるハードウェア資源と、画像形成に係る処理を行うプログラムと、通信手段とを有する画像形成装置において、前記通信手段で接続された装置が対応可能な画像データの形式を含む形式情報を、前記装置に画像データを転送する際に取得する形式情報取得手段と、取得した前記形式情報から、前記装置に転送する画像データの形式を決定する形式決定手段と、決定した画像データの形式に応じて、転送する画像データの形式の変換を行う画像データ変換手段とを有する。

【選択図】 図 3

特願 2002-314675

出願人履歴情報

識別番号

[000006747]

1. 変更年月日 1990年 8月24日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都大田区中馬込1丁目3番6号
氏 名 株式会社リコー
2. 変更年月日 2002年 5月17日
[変更理由] 住所変更
住 所 東京都大田区中馬込1丁目3番6号
氏 名 株式会社リコー